

道産資源を活用した釉薬のデータベース化と普及

Database and Presentation of Ceramic Glazes Techniques Utilizing Hokkaido Natural Resources

材料技術部 吉田 憲司・野村 隆文

■支援の背景

陶磁器釉薬の開発では、優れた色調や表面性状を表現するため、原料粒度、配合組成等の調製条件、温度・雰囲気、昇・降温速度等の焼成条件を適宜選定・管理することが重要です。従来、工業試験場では、道産資源を有効活用した釉薬の調配合試験を継続実施し、膨大な釉薬テストピースを作製し、その製造技術を蓄積してきました。ここでは、江別市セラミックアートセンターの協力で、釉薬、粘土に関する試験研究結果を項目別に整理、データベース化、その効果的活用法、一般公開の展示方法を検討し、企業や陶磁器製造関係者に対して釉薬開発に関する窯業の基盤技術を解説、情報発信した事例を紹介いたします。

■支援の要点

1. 釉薬テストピースにおけるデータベースの項目別編集法
2. 釉薬テストピースに関する試験データの解説方法
3. 釉薬テストピースの一般公開に向けた展示方法



釉薬テストピース資料の展示



釉薬関連資料の解説・普及

■支援の成果

1. 道内10振興局から収集した道産資源を用いて、各種配合組成と焼成条件で作製した千数百点のテストピースを、釉薬開発に有効な原料配合の三角座標とゼーゲル式に大別・整理しました。
2. 全テストピースの色調、表面性状、作製条件等を写真撮影し、アルバムに保管しました。
3. 膨大な釉薬、粘土に関する試験研究結果やデータを項目別に整理し、データベース化することにより、企業や陶磁器製造関係者に対して、窯業の基盤技術を情報発信できました。
4. 平成26年8月2～24日、江別市セラミックアートセンターにおいて、釉薬等のテストピース資料を一般公開、展示し、数百名の道民の皆様に釉薬の作製技術を解説、普及しました。

江別市郷土資料館・江別市セラミックアートセンター
江別市西野幌114番地の5 Tel.011-385-1004